SHALOM-NETWORK

発行：NPO法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原17-3
TEL／FAX　024-567-5322
Web　http://www.nposhalom.net
Email　info@nposhalom.net
発行責任者：大竹静子

ひまわり栽培日記

九月二十五日には感謝祭も　福島でひまわり栽培開始

震災から十年を経て、今年は福島でも自然を相手にひまわり栽培に取り組んでいます。養護施設青葉学園の畑を借りて栽培に挑戦しています。青葉学園の子どもたち、地元老人会のみなさん、障がい者施設のみなさん、ボランティアのみなさん約八十名での種まきから始まりました。五月一日、地元の貴船神社の宮司さんに豊穣・安全祈願祭をお願いし、地元老人会のみなさんにも協力していただき盛大に行いました。

ところが種を蒔いても芽が出ません。種を蒔けば放って置いても大きくなり、花が咲くと思っていたのが、見事に裏切られました。芽の出ない場所へ二度目の種蒔きをし、芽が出ると今度は根切り虫の餌食に。三度目の種蒔きでは、長雨で思うように芽が伸びません。そんな中で、初めに植えた株では七月九日に開花が確認されました。予想より十日も早い開花です。二度目、三度目の背丈は思うように伸びてくれません。小さいままで、すでに花芽が出てきていました。成長を心配されましたがその後の天気の回復により、無事背丈も伸び、現在は一面ひまわりの花が咲き誇っています。自分たちで栽培することで全国の栽培協力者様たちがいかに大変な思いをしながら栽培に取り組んでくださっていたかを実感し、感謝の思いを噛みしめています。

満開となった八月七日に予定していた「ひまわり祭」はコロナの影響で中止となり、楽しみにしていた老人会のみなさんは残念がっていらっしゃいます。人の背丈を超えたひまわりの花の中に埋もれた人たちが吾妻山を背に記念写真に収まる姿を期待していましたが、現実からは大きく裏切られてしまいました。

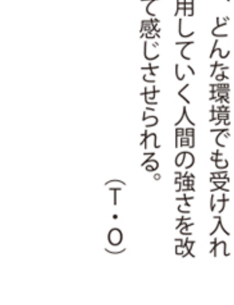
しかし、開花と成長に違いはあっても悪戦苦闘の後の開花を目の前にする感動はひとしおです。開花から四十日を目安に、収穫のための刈取の作業が待っています。刈り取った種の乾燥、種取りの作業へと続きます。

九月二十五日には「収穫感謝祭」が計画されています。種蒔き時に植えた里芋とネギも順調に伸びており、芋煮の材料もそろい、今度は大丈夫と老人会のみなさんも楽しみにしています。当日は、神戸から全盲のバリトン歌手、時田直也さんを招いてのコンサートも予定されています。コンサートの様子は、第二百十回地元学として配信する予定となっており、今から楽しみです。

種を蒔かれた自然環境の中で生きるひまわり。ひまわりはその蒔かれた土地の情報を私たちに伝えてくれます。関わることで知れる自然の営み、気温、風、水、地形が大きく影響し合う自然の営み。これを受け入れ成長していくひまわりは、異常な気候変動の情報をも伝えています。

この情報に向き合い、失敗から挑戦し来年を目指す、自然の営みに挑み続ける百姓の来年は確実に巡ってきます。諦めなければ、その成果は確実に戻ってくる、それが大きな醍醐味となって。自然の営みを知らずに自然環境の保全を唱えても絵空事として空しく響きます。自然の営みの広がりと深さを体験できる「ひまわりプロジェクト」の素晴らしさを伝えていきたいと思います。

（T・O）



愛のメモ帳

鳥たちは、早起きである。空がうっすらと明るくなってくると賑やかに朝のミーティングを始める、まだ四時半。しばらくすると蝉たちもこれに加わって一段と賑やかとなる。アブラゼミ、ミンミンゼミの混声合唱団。鳥たちの声がいつの間にか、かき消されて聞こえない。

年とともに早起きになり、鳥たちの仲間入り。朝の涼しいうちに一仕事を済ませることが習慣となってきた。原稿を書いたり、計画をまとめたり、頭がクリアなうちに行うのが一番。日中の三十五度を超す猛暑を過ぎた夕方は目もかすみ頭が働かない。現実に適応していくことは自然の摂理と一人で納得する。

コロナ禍の緊急事態宣言下で行われていたオリンピック、何事もなく終わりを迎えられほっとする。例年になく猛暑の続く暑い夏、緊急事態宣言下での感染拡大、異常な環境下で試合に臨む選手たち、どんな環境でも受け入れ適用していく人間の強さを改めて感じさせられる。

（T・O）

ひまわり通信2021　協力者様ご来福ツアー報告

◆震災・原発事故から十年の福島をご案内しました

春休みにひまわり大使が関西を訪問し、栽培への御礼も含めて交流させて頂きました。交流先では皆さん、大使の作文を真剣に聞いて下さり、震災と原発事故から十年を経た福島を実際に訪問したいとのご意見が。今回、二泊三日の日程で来福（国際交流の会とよなかの主催、大阪コミュニティ財団のご支援）され、中通り・浜通りをご案内しました。

津波が襲い、甚大な被害が出た仙台空港に到着すると、全国のボランティアさんが地元の方と一緒に植えた防災林を見学。広い砂浜に長く連なる防波堤と海を見るに感慨深いものがありました。その後、福島市内に移動し、信夫山の除染土仮置き場を見学。保健福祉センター周辺では放射線の測定も実演しました。ごく一部に高い放射線量の場所があり、普段は決して目にすることの無い現実に驚かれている様子でした。まちなか夢工房の見学・交流発表会を行い、参加メンバーそれぞれの方からひまわりプロジェクトへの思いやご活動内容をお聞きしました。

二日目は、まさにシーズン真っ只中の「桃」を買いに農産物直売所へ。甘い香りのする桃も格安で、ご家族へのお土産として喜ばれたことと思います。飯舘村に移動し、雪っこかぼちゃの栽培に尽力されている渡辺とみ子さんと合流。原発事故後に増えた太陽光発電所や、少しずつ復活し始めている仔牛の肥育、そして今も続く除染土の運び出しを見学しました。帰還困難区域として立ち入りが制限されている長泥地区のゲート前まで行ってみました。ゲートに近づくにつれて放射線量が高くなり、今も残る影響に言葉もありませんでした。とみ子さんの活動についてお話を伺い、持ち前のパワフルなお人柄と同時に、思い悩みながら歩みを続けてきたご体験に感動の時間でした。実に美味しい郷土料理のお弁当を頂きお腹も気持ちも満たされました。

ひまわりプロジェクトを担当しているベーシック憩を見学し、作業工程や利用者さんの活躍ぶりについてお話をお聞きしました。洛西中学校の先生からは、生徒さんが作って下さったメッセージを贈呈頂きました！

二本松市に移動し、有機農業研究会の大内督さんに太陽光発電設備を見学させて頂きました。大内さんは有機農家を継ぎ、原発事故後の放射線被害に悩まれた方です。試行錯誤の末、栽培と発電を両立させるハイブリッド型の太陽光発電に取り組み、エネルギーも生み出せる農業に取り組んでいます。農家にとって命である土を汚染された憤りを前向きに変換させ、多くの理解者・協力者を得ながら活動する大内さんにいつも脱帽です。

三日目は浜通りを北上しながら見学。富岡町に新しくオープンした「アーカイブミュージアム」では、町の歴史から震災・原発事故で被った影響までを展示。被災したパトカーや住民が保管していた貴重な資料も含め、気持ちのこもった展示の数々に見入りました。「来訪者にも来てもらいたいが、町民が富岡を忘れないようにとの思いで施設を作った」とのことで、今も離散状態にある町民の心の拠り所になる施設と実感しました。

新しく造られたJR富岡駅、ホテル、住宅街を通り、海が見渡せる場所へ。ふと南を見ると、福島第二原子力発電所が見えました。こちらも移転・新設された大熊町役場や最近、復興された住宅街を見学。今も拡幅工事中の公営住宅に住むのは避難先から戻る町民なのか、それとも新しい住民なのか・・・。双葉町に造られた「東日本大震災・原発事故伝承館」へ。時間が無く、駆け足になったことが悔やまれるほどの豊富な内容で、様々な切り口から網羅的にこの十年を振り返ることが出来る施設でした。屋外に、津波で原型をとどめない程に破壊された消防車がポツンと止まっていました。

仙台空港から帰路につかれた見学者の皆さんが、見聞きされたことを関西の皆さまにお伝え下さり、震災と原発事故を教訓に次なる災害・人災の予防につなげて下さることを切に願いながらお見送りしました。ご自身と大事な誰かを守るために。

（ひまわりPJ・吉野）

▲ 飯舘村長泥地区への立ち入り制限を示すゲート

▲ ベーシック憩にて。洛西中学校の生徒さんからメッセージを贈呈いただきました。

▲ 二本松の有機農業研究会で栽培と発電のハイブリッド型太陽光発電設備を見学。（左から3人目が大内督さん）

▲ 富岡町「アーカイブミュージアム」

教養講座　地元学を考える

第二百八回「地元学を考える」（二〇二一年六月十九日開催）
「体の痛みはなぜ起こる〜原因を知り改善の仕方を学ぼう〜」

講師　水戸　章さん

今回の地元学はニューライフ体操教室主宰の水戸章さんが講師として来てくださり、題は「からだの痛みはなぜ起こる〜原因を知り改善の仕方を学ぼう〜」でした。まずどこが痛くて悩んでいるか水戸先生が会場の皆さんに聞くと、腕、肩、腰、膝と言われ、ほとんど全部じゃないですか！と笑いが起きました。

痛みがあると誰でも「辛いな」とか「嫌だな」とか思いますが、逆転の発想を教えて頂きました。先天性無痛症と言う生まれつき痛みを感じない病の方がいて、痛い思いをしないから良いなと考えますが、長生き出来ないと言うのです。火傷や切り傷、骨折などをしても痛みがないのですから、そのまま処置しなければ命にかかわります。痛みは生きるのに必要な感覚で、痛みを感じられるから生きていける事を教えて頂きました。これから痛みを感じた時は、「自分は生きてるなぁ」と幸せを感じて歩めそうです。

次に痛みの原因ですが、筋肉が硬くなり、血流の低下が起こることで細胞が酸欠になると脳に痛みの信号が送られて痛くなる。もう一つは筋肉と筋膜がくっついて動きが悪くなることで痛くなるのが原因になります。ただ、痛みの場所はピンポイントではなく、大体でしか脳に伝わっていないそうです。それから筋肉を使い過ぎたり、使わな過ぎで痛みが出ますが、人によってその適量は違います。自分に無理なく適度に動かし、コツコツと少しの時間でも長く続け、歯磨きするように習慣になると良いと思いました。

次に実際に皆さんが体験して、その変化を目の当たりにしてとても驚きました。まずは参加者が立って両手を体の後ろで組んでから、その手を水戸先生が下に押すと後ろに倒れそうになりました。見ていて確かにそうなると思いました。そして足の指の間に手の指を入れてグリグリ回してからまた立って同じ様に押しました。すると倒れないではないですか。最初より強く押しても倒れない事にとても驚きました。次に参加者が頭をどれだけ後ろに倒すことができるかという事で、今度は立ったまま手で足首を持って体を反らしました。これをした後また頭を反るように曲げると、最初より反ることができ、また驚きました。

普段使っていない所をほぐす事で、しかもこんなにも短時間で変化することに目から鱗でした。からだはその部位だけで完結しているのではなく、すべてが連動してそれぞれが補い合い、支えあっている事を知りました。そのことから身体は愛でできていると感じました。水戸先生、ありがとうございました。（後藤　恒治）

感想文を寄稿してくださった後藤さん、誠にありがとうございました。

第二百九回「地元学を考える」（二〇二一年七月二十四日開催）
「コロナの時代の映画〜映画産業の根幹をゆさぶるコロナ禍〜」

講師　阿部　泰宏さん

緊急事態宣言の中で、密になる代表格に映画館が挙げられていたのは記憶に新しい。このコロナの時代に、現状がどうなっているのか、存続の危機にあるのではという心配とともに気になる問題だった。今回の講演を通して、その疑問はかなりの部分解消したが、予想を遥かに超えた現実を突きつけられた思いがする。

映画館の歴史の中で日本中の映画館が一斉に休館したのは、始めての出来事であった。終戦の翌日から映画館が営業を開始し、昭和天皇崩御の時も休まず、映画館は休まないものだという伝統があった。これが緊急事態宣言で一瞬にして消えることとなった。昨年の第一波ではコロナの感染拡大で福島でも感染者が発生したことで客の入りは途絶え、緊急事態宣言の中に映画館が名指しで密な場所とされたことで休館を余儀なくされた。宣言の解除、再宣言、現在四回目の宣言下にある。行政からの要請は、現場には命令となる。従わざるを得ないが・・・。続けていこうとする強い意志と苦悩がひしひしと伝わってくる。

コロナ禍による世界規模のパンデミックで、アメリカのハリウッド映画が作れない状況が続いている。新作映画は完成して三年後に公開されることになる。また、ハリウッド映画が日本映画の五十％を供給している。これらを考えると来年は作品が枯渇して新作映画が上映できないことになるという。

この窮状を救ったのが日本映画の「鬼滅の刃」。日本記録の四百億円超の興行収入を上げ、コロナ禍の中で一人勝ちを収めている。鬼と戦う炭治郎の姿は、コロナ禍での不安と向き合う人々の救いとなったのかもしれない。映画はその時々の社会の持つ課題を掘り下げ映像として映し出す。これから公開を予定されている水俣をテーマにしたドキュメンタリー映画は、報道写真家が現地の取材を通して現地の人々の叫びと苦悩を写し取っていく、映像の凄さと魅力が伝わってくる。

映画の魅力と置かれている厳しい状況を知るとき、映画の火を絶やしてはいけない、みんなで文化の拠点として守っていかなければならないという思いが込み上げてくる。

（T・O）

地元学講座オンライン配信

遠方の方にも地元学をお楽しみいただけます。ぜひご覧ください。

YouTubeチャンネル名
【公式】NPO法人シャロームチャンネル
チャンネル登録と動画更新通知をONにすると、最新のアップロード動画が見やすくなります。

QRコードからもチャンネルをご覧いただけます
URL　www.youtube.com/channel/UCNqEo3kUXXGnUh036YJwJNg

活動のご報告
2021年6月21日〜8月20日

6月21日　事務局　スペース・ラブリ棚卸し

6月23日　憩〈販売〉福島県授産事業振興会

6月26日　夢工房〈催事〉福島県観光物産館（コラッセふくしま）

6月27日　シャローム福祉会　理事会・総会

7月1日　憩　ワクチン接種会場での販売開始（NCV福島アリーナ）

7月17日　地域福祉　〈催事〉連携販売イベント（いちい鎌田店）
憩・ひまわり〈交流〉千葉県立館山総合高校様リモート交流会

7月21日　事務局　スペース・ラブリ棚卸し

7月24日　第209回　地元学講座
「コロナの時代の映画
〜映画産業の根幹をゆさぶるコロナ禍〜」
講師　阿部泰宏さん

8月2〜4日　ひまわり〈交流〉FIFA様来福ツアー

8月16〜20日　ひまわり〈交流〉ひまわり大使ツアー（北海道）

▲ 福島市、青葉学園のひまわり畑（七月中旬）

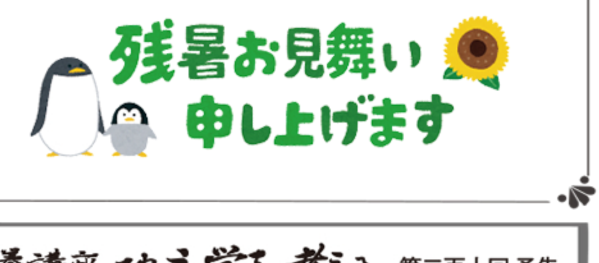
活動予定
2021年8月21日〜9月20日

8月21日　事務局　スペース・ラブリ棚卸し

8月12〜16日　夢工房・憩　夏季休業

8月29日　憩〈催事〉「いきいき！ふくし夏祭り」

9月11日　夢工房〈イベント出店〉「Cinemaの夕べ」



教養講座　地元学を考える　第二百十回 予告

ピアノ弾き語り
「震災の記憶・福島への思い」

〈講師〉時田　直也さん（バリトン歌手）
〈日時〉2021年9月25日（土）　13:30〜15:00
〈場所〉青葉学園講堂（福島市土船）
〈参加費〉無料（全国地域づくり協議会助成金による）
＊5名限定

＜講演内容＞
東日本大震災から十年、テーマに沿いながら詩人・金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」「星とたんぽぽ」（オリジナル曲）。冬の旅「菩提樹」などの歌をお届けしながら、父がくれた熱いメッセージや忘れられない出会いなどを皆さまにお伝えいたします。
ピアノを弾きながら、歌やお話で皆さまと交わりを持たせていただきます。

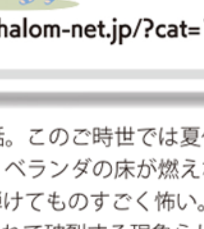
＜プロフィール＞
1960年兵庫県神戸市生まれ、「ヘレンケラー全日本盲学生音楽コンクール声楽の部」優勝、神戸市芸術文化団体"半どんの会"より「文化賞芸術奨励賞」受賞、1989年大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業、岡田征士郎・藤井公子・故横井輝男各氏に師事、「神戸波の会」会員、CD「かけがいのないあなたへ」「星とたんぽぽ」他リリース

私にとって「風」は音楽です。そして「音楽」もまた風なのです。生後半年で未熟児網膜症と診断され、生れた時からずっとみるという経験がありません。
阪神淡路大震災の一か月後に天に召された父が、亡くなる直前まで語り続けてくれたのはこの言葉でした。「おまえがうまれてきてくれて嬉しかった」。生後六ヵ月、父の腕の中でそよ風に吹かれ、全身全霊で喜びをあらわした日のことを語りながら、かならず言ってくれたこの一言が、わたしの心の深いところで響き渡っています。

＊9月22日までにお申込みください。新型コロナ感染拡大防止のため、またひまわり栽培参加者との合同行事となり、5名限定といたします。終了後、シャロームホームページよりユーチューブ配信いたします。

ひまわりブログ

全国の協力者様のお手紙・メッセージ紹介しております！ぜひご覧ください！



URL　http://shalom-net.jp/?cat=16

編集後記

線香花火が爆発した話。このご時世では夏休みも遠出できず、せめて夏らしいことをしたいなと思ってベランダで線香花火をしました。ベランダの床が燃えないようにと水を張った容器の上でやったのですが、線香花火が途中で水に落ちると激しく弾けてものすごく怖い。なんで？と思って調べたら「水蒸気爆発」だそうで。約800度の線香花火の玉が水で冷やされて破裂する現象らしいです。国際おもちゃ花火協同組合のHPによると水の上（濡れた土も同じく危険）で線香花火をするのはNGだそうです。皆さまも遊ぶ際はご注意くださいね。（A・O）